

講演テーマ

【医師から見た多職種連携とは 在宅医療 9年の経験から】

講師：保土ヶ谷在宅クリニック 大田英一郎先生

日時：2018年6月8日(金)

(1) クリニック紹介

平成21年5月開院。在宅医療中心の診療。常勤医師4名。非常勤医師2名。

(2) 在宅医療で看取るということ

・在宅での看取りがスムーズにいかないのはなぜか？

病院での最後は慣れているが死に対する不安感が在宅での看取りを困難にする

・「死への不安」を解消するには？

本人の不安：できるだけ寄り添う

家族・介護従事者の不安：死に至るまでの病状変化を理解してもらう・救急車を呼ぶ前に医師・看護師に連絡してもらう

医療従事者の不安：「何もしない」ことが「後ろ向きの医療」でないことを理解してもらう

・病気や生命予後について理解を深めるには？

訪問診療開始時に必ず理解度を確認する。「うそ」をつかない。

(3) 医療と介護の連携について

・ケアマネジャーとの連携：在宅での看取りをうまく進めるためにお互いの連携が非常に重要 これまで以上に医師から介護への情報提供を行う必要性

・訪問看護に求められる機能：患者・家族の全般を把握する注意力を持ち
医療と介護の調整の役割を果たす

・薬剤師に求められる機能：患者・家族の希望に合わせて夜中でも動ける能力
全般状況を把握する注意力

(4) 在宅での看取り まとめ

①今まで以上に医療と介護の連携で看取りを行うことが必要

②在宅看取りのイメージを共有してベクトルを一つにすることが求められる

③各種の不安要因を解消することが看取りをスムーズに進めるコツ

④病気や生命予後の理解度が深まらないと看取りは困難